

特集「アジアにおける粉体事情と協会の海外交流活動」を企画して

特集担当編集委員 永禮 三四郎、浅井 直親

アジアといっても各国の経済成長、政治の安定性、地理的な特徴、資源、人口などそれぞれの国によって事情は大きく異なり、一言でまとめることはとてもできない。しかしアジア全体での経済成長や投資はますます伸びていくことが考えられ、また日本からの地理的距離も近いため注目度は高い地域である。本特集では、まずアジアの中でタイ、マレーシア、韓国をピックアップし、各国に特有の資源や経済状況などに関連した粉体事情について、現地で活躍中の方々に紹介いただいた。そして協会のアジア地域における海外交流活動についても中国、インドにおける展示会などを中心に紹介させていただいた。

タイ国立科学技術開発庁のディサユット ポカラットグン氏には、「タイ東部経済回廊プロジェクトと期待される応用研究」と題し、タイの経済発展あるいは政策の方向性と、そこに関連した技術分野や応用研究について紹介いただいた。グラフィエンの応用研究などを含む、ハイテク産業をターゲットとした投資を促進するタイ政府の方向転換には大きな躍動を感じる。

九州工業大学の白井義人氏には、「マレーシアのパームオイル産業とバイオマスの利用について」と題し、東南アジア地域ならではの資源である油ヤシの環境・エネルギー分野への有効活用の提案について執筆いただいた。環境と産業の共存共栄を目指した取り組みに期待が高まる。

SAMSUNG ELECTRONICS CO., Ltd.の Jong-Seok Moon 氏には、「韓国でのリチウムイオン電池材料の開発」と題し、韓国におけるリチウム電池の開発の経緯と今後の動向について、また粉体技術が重要な役割を果たす、正極材料と負極材料の課題について総合的にまとめていただいた。現在世界中で注目されているリチウム電池について非常にわかりやすく解説されており大いに参考になる。

当協会 海外交流委員会の辻裕氏には、「中国とインドの粉体展示会」と題し、海外交流委員会でのご経験を元にアジアの中でも経済発展の著しい中国とインドの、粉体技術に関連した展示会について執筆いただいた。展示会は技術の交流のみならず人間交流の場として重要な役割を果たしており、今後日本とアジア各国のつながりをより一層深めていくために必要不可欠である。

最後に同 海外交流委員会委員長の松本幹治氏には、「[海外交流委員会]について ― 役割と活動概要 ―」と題し、委員会の職務や今年度の活動内容について紹介いただいた。今後の協会の海外交流の取り組みについてもぜひ注目していただきたい。

本特集を企画して、あらためてアジア各国の今後の経済発展について大きな期待を感じることができ、また粉体技術もその発展に大いに貢献できることがわかった。協会の海外交流委員会では苦労も多い一方で、着実に粉体技術を通じて日本と海外の国々の交流が進んでおり、今後の活動が楽しみである。